

山梨県衛生環境研究所年報

令和2年 第64号

Annual Report of the Yamanashi Institute
for Public Health and Environment

No. 64, 2020

山梨県衛生環境研究所

はじめに

山梨県衛生環境研究所は、公衆衛生・環境に関する県内唯一の公設研究機関として、山梨県の環境と県民の健康を守るため、感染症や食中毒の原因究明やまん延防止、食品及び医薬品の安全性の確保及び大気、水質及び土壌の汚染防止等の環境保全に関する様々な試験検査・調査研究に取り組んでいます。

令和元年12月に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については、当研究所では、令和2年1月中旬から検査実施の体制整備にあたり、2月上旬からリアルタイムPCR法での検査を開始し、3月6日に県内で初めて感染者を確認した以降は増え続ける検体の検査に追われる日々でした。

今年に入り、リアルタイムPCR法検査に加え、アルファ型（N501Y）やデルタ型（L452R）の変異株スクリーニング検査を開始し、さらに、感染者の増加に伴うクラスター事例に係る接触者の検査への対応など当所の任務が広がり続け、果たす役割の重要性を強く感じております。このような中、県庁内外からも応援をいただきながら機器整備・検査体制の強化を図り、所一丸となって対応して参りましたが、同時に、平時からの体制整備、人材育成の重要性を再認識したところです。

感染症、食品、環境等公衆衛生に関する様々な問題が多様化、複雑化、広域化、国際化が進み、研究所を取り巻く環境は大きく変化しております。常に危機意識を持ちながら、諸問題や健康危機に迅速かつ的確に対応していくことができるよう検査体制の充実強化に努めて参ります。県民の皆様の期待に応えられる研究所を目指し、関係機関と連携を図りながら、更なる試験検査・調査研究の機能強化を図って参りますので、なお一層の御理解と御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

ここに、令和2年度の調査研究成果と業務概要を「山梨県衛生環境研究所年報第64号」として取りまとめましたので、御高覧の上、御指導・御助言をいただければ幸いに存じます。

令和3年12月

山梨県衛生環境研究所

所長 小林 早苗

目 次

| | |
|---|----|
| I 組織と沿革 | 1 |
| II 業務報告 | |
| 企画情報科・総務スタッフ | 2 |
| 生活科学部 | 7 |
| 微生物部 | 9 |
| 環境科学部 | 12 |
| III 資料 | 14 |
| IV 論文抄録および学会発表 | 25 |
| V 研究報告 | 28 |
| 増富温泉地域の本谷川右岸の未利用源泉群の調査 | 29 |
| 本県産ミネラルウォーター（MW）の特性に関する「見える化」研究 | 35 |
| 2011年から2020年に山梨県で分離されたヒト由来サルモネラ属菌の薬剤耐性 | 41 |
| 東山梨局における微小粒子状物質（PM _{2.5} ）の経年変化と特徴 | 47 |
| 山梨県における有害大気汚染物質調査－揮発性有機化合物（VOC）について－ | 55 |
| 大月市内で実施した光化学オキシダント補足調査 | 63 |
| 早川水系と富士川のSSに関する研究（第2報）－SSの起源について－ | 69 |